

(品目別需給編)

# 1 小麦

## (1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2022/23 年度

**生産量** 前年度比 前月比

・アルゼンチン、EU 等で下方修正されたものの、豪州、カザフスタン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

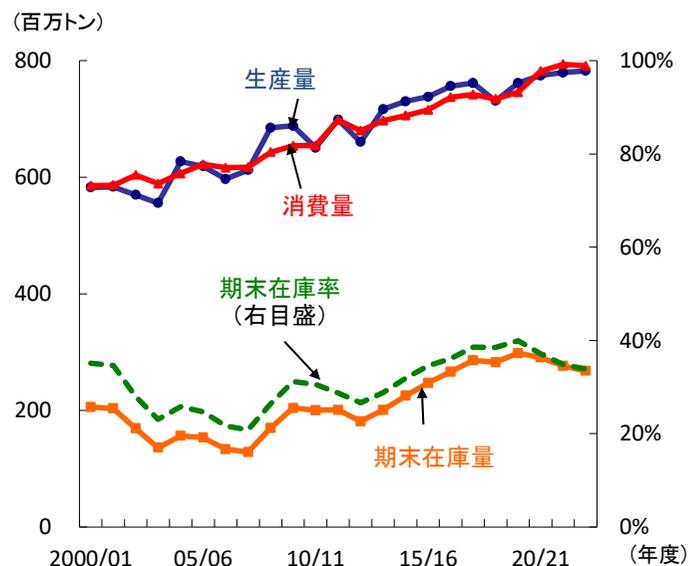
**消費量** 前年度比 前月比

・EU 等で上方修正されたものの、バングラデシュ、インド等で下方修正され、前月から下方修正された。

**輸出量** 前年度比 前月比

・アルゼンチン等で下方修正されたものの、豪州、カザフスタン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**期末在庫量** 前年度比 前月比



資料:USDA「PS&D」(2022. 11. 9) をもとに農林水産省にて作成

## ◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	774.5	779.4	782.7	1.0	0.4
消費量	782.1	793.8	791.2	1.0	▲ 0.3
うち飼料用	158.1	160.9	156.4	0.9	▲ 2.8
輸出量	203.3	202.8	208.7	0.3	2.9
輸入量	195.4	198.0	202.6	▲ 1.3	2.3
期末在庫量	290.7	276.3	267.8	0.3	▲ 3.1
期末在庫率	37.2%	34.8%	33.9%	▲ 0.0	▲ 1.0

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (9 November 2022)

○ 2022/23年度の世界の小麦の生産量(782.7百万トン)(単位: %)



○ 2022/23年度の世界の小麦の輸出量(208.7百万トン)(単位: %)



○ 2022/23年度の世界の小麦の輸入量(202.6百万トン)(単位: %)



## (2) 国別の小麦の需給動向

### < 米国 > 2023/24 年度の冬小麦の発芽進捗率は5年平均並の81%

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく44.9百万トンと前年度に比べ0.2%増加したものの、2003/04年度以降で2021/22年度に次ぎ少ない。

品種別の生産量は、冬小麦、春小麦、デュラム小麦とも前月予測からの変更はなく、それぞれ、30.0百万トン、13.1百万トン、1.7百万トンの見込み。

冬小麦は、主要生産地の干ばつの影響で生産量が減少し、前年度に比べ13.6%減少(5年平均:33.9百万トン)。一方、春小麦、デュラム小麦は降雨過多による播種遅延があったものの、前年度の乾燥により減少した生産量から回復し、春小麦は前年度に比べ45.7%の増加(同:13.7百万トン)。また、デュラム小麦は同69.9%の増加(同:1.6百万トン)。

「Crop Progress」(2022.11.7、11.14)によれば、11月6日時点で2023/24年度冬小麦の主要生産18州の播種進捗率は92%となり、播種はほぼ終了した。また、11月13日時点の主要生産18州の発芽進捗率は、81%と前年度(80%)を上回るものの、5年平均(81%)並となっている。HRW(ハード・レッド・ウインター)の主要生産州の発芽進捗率は、テキサス州では75%と5年平均を4ポイント上回るものの、カンザス州で75%と5年平均を8ポイント下回っている。

また、干ばつが主要生産州のカンザス州等に広がっており、11月8日時点で冬小麦生産地域の約74%が干ばつ状況。このため、同月13日時点の主要生産地のカンザス州、オクラホマ州の作柄評価(やや良～良)の割合は、それぞれ24%、19%と前年度同期の61%、52%を大きく下回った。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、21.1百万トンと1972/73年度以降最低となる見込み。

米国产の輸出価格は主要輸出国に比べ価格競争力が弱く、2022/23年度の2022年6月から同年9月の輸出量は、前年度同時期に比べ4%減少。一方、10月の輸出量は、131.2万トンと前年度同時期114.9百万トンを上回った。10月の輸出先国は、日本(11.9%)、メキシコ(11.3%)の順。

なお、2022年1月から同年10月までの輸出量は1,770.6万トンと前年度同期を13.1%下回る。

期末在庫量は、前月に比べ0.1百万トン下方修正され、2008/09年度以降で最低の15.5百万トンの見込み。なお、期末在庫率は2014/15年度以降最低の30.6%。

## 小麦一米国 (冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年6月～23年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.8	44.8	44.9	-	0.2
消費量	30.4	30.4	29.8	0.1	▲2.1
うち飼料用	2.5	2.4	1.4	-	▲43.1
輸出入量	27.1	21.8	21.1	-	▲3.2
輸入量	2.7	2.6	3.3	-	26.3
期末在庫量	23.0	18.2	15.5	▲0.1	▲14.7
期末在庫率	40.0%	34.9%	30.6%	▲0.4	▲4.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.89	15.03	14.36	-	▲4.5
単収(t/ha)	3.34	2.98	3.13	-	5.0

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)

### 図 米国产小麦の期末在庫量、期末在庫率の推移



資料:USDA「PS&D」(2022.11.9)をもとに農林水産省で作

### 図 米国产小麦の輸出先国別輸出量

2022年10月			2022年1月～10月		
国名	検証高(万トン)	シェア(%)	国名	累積検証高(万トン)	シェア(%)
日本	15.6	11.9	メキシコ	326.7	18.5
メキシコ	14.8	11.3	フィリピン	207.7	11.7
フィリピン	12.9	9.8	日本	189.5	10.7
韓国	12.3	9.4	ナイジェリア	111.0	6.3
イラク	10.5	8.0	韓国	102.2	5.8
その他	65.1	49.6	その他	833.5	47.1
合計	131.2	100.0	合計	1,770.6	100.0

注1. 10月の輸出検証高は、10月6、13、20、27日、11月3日の合計値

注2. 2022年累積輸出検証高は、2022年1月6日～11月3日の合計

資料:USDA Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals (2022年11月11日)より作成。

## < カナダ > 生産量は回復し、過去5年平均比14.3%増、品質は良好の見込み

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2022.11.18)によれば、2022/23年度の小麦全体の生産量は、前月予測からの変更はなく、34.7百万トンの見込み。生産量は、収穫面積と単収の引き上げから、カナダ西部の干ばつにより生産量が減少した2021/22年度に比べ55.6%増加する見込み(過去5年平均比13.3%増)。

品種別には、普通小麦、デュラム小麦とも、前月予測からの変更はなく、それぞれ28.6百万トン、6.1百万トンの見込み。前年度に比べ、普通小麦は、48.4%増加し(過去5年平均比11.9%増)、デュラム小麦は101.3%増加する見込み(過去5年平均比20.6%増)。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、11月3日時点のサンプル調査の結果、普通小麦は、サンプルの93%が1～2等に格付けされ、カナダ・ウェスタン・レッド・スプリング(CWRS)の平均タンパク質含有率は、1等が14%、2等が13.6%である。デュラム小麦は、サンプルの82%(前年度同時期70%)が1～2等に格付けされ、平均タンパク質含有率はカナダ・ウェスタン・アンバー・デュラムの1等が14.3%である。

また、主要産地のサスカチュワン州政府の報告によれば、ハード・レッド・スプリング(HRS)の格付けは、1等が70%(過去10年平均39%)、2等が23%(同35%)を占めた。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2022/23年度の消費量は前月予測からの変更はなく、9.0百万トンの見込み。なお、USDAによれば、本年度は多くが良好な品質となる見込みから、飼料用小麦が不足する見込み。なお、飼料小麦の13%は米国产小麦で賄われているとみられる。

AAFCによれば、2022/23年度の小麦全体の輸出量は、前月予測から0.2百万トン上方修正され、前年度に比べ55.3%増加の23.5百万トン。そのうち、普通小麦は前月予測から0.2百万トン上方修正され18.5百万トンと前年度比47.4%増、デュラム小麦は、前月予測からの変更はなく5.0百万トンと、同84.1%上回る見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2022/23年度(2022年8月～2023年7月)の8～9月の輸出量は普通小麦が263.1万トン、デュラム小麦は35.5万トンの計298.6百万トン。

輸出先国は、普通小麦が中国(20.1%)、日本(11.4%)、バングラデシュ(10.0%)、デュラム小麦は、イタリア(38.9%)、モロッコ(23.4%)の順。USDAによれば、期末在庫率は史上最低の11.9%の見込み。

## 小麦－カナダ(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23(22年8月～23年7月)		
			予測値、( )はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	35.4	22.3	35.0 (34.7)	-	57.0
消費量	9.1	10.0	9.1 (9.0)	-	▲ 9.0
うち飼料用	4.2	5.0	4.0 (4.6)	-	▲ 20.0
輸出量	26.4	15.1	26.0 (23.5)	-	71.8
輸入量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-	9.1
期末在庫量	6.0	3.7	4.2 (6.0)	-	13.6
期末在庫率	16.7%	14.6%	11.9% (18.5%)	-	▲ 2.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.02	9.19	10.00 (10.06)	-	8.8
単収(t/ha)	3.54	2.43	3.50 (3.45)	-	44.0

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)  
AAFC「Outlook For Principal Field Crops」(18 November 2022)

## 表 カナダ産普通小麦、デュラム小麦の輸出先国別輸出量

(普通小麦)

2022年9月			2022年8月～2022年9月		
国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
中国	31.3	19.2	中国	52.8	20.1
日本	17.3	10.6	日本	30.1	11.4
バングラデシュ	14.5	8.9	バングラデシュ	26.4	10.0
コロンビア	13.2	8.1	ペルー	18.6	7.1
ペルー	12.4	7.6	インドネシア	17.4	6.6
その他	73.9	45.4	その他	117.8	44.8
計	162.6	100.0	計	263.1	100.0

(デュラム小麦)

2022年9月			2022年8月～2022年9月		
国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
イタリア	7.9	35.6	イタリア	13.8	38.9
モロッコ	6.1	27.5	モロッコ	8.3	23.4
米国	3.7	16.7	米国	6.3	17.7
ペルー	1.1	5.0	ペルー	2.0	5.6
ポルトガル	1.1	5.0	アラブ首長国連邦	1.1	3.1
その他	2.3	10.4	その他	4.0	11.3
計	22.2	100.0	計	35.5	100.0

注1:Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のデータ

注2普通小麦の品種はNO.1-3Canada Western Red Spring No.1Canada Western Red Winter No.2Canada Eastern Red Spring No.2Canada Eastern Oter,

デュラムはCanada Western Amber Durum Others

資料:Canadian Grain Commission「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」をもとに作成。

## < 豪州 > 生産量は前月予測から 1.5 百万トン上方修正され、史上 2 番目の 34.5 百万トン

【生育・生産状況】USDA によれば、2022/23 年度の実生産量は、前月予測から 1.5 百万トン上方修正され、34.5 百万トンと史上最高の前年度(36.4 百万トン)を 5.1%下回るものの、史上 2 番目となる見込み。生育期当初に良好な生育条件に恵まれ、その後 10 月には平均を超える降雨があり、生育が進み、単収が上昇した。また、9 月、10 月の降雨で土壌水分量は十分となった。現在、主要生産地では深層の土壌水分量が平均から平均以上となっており、更に単収が上昇するとみられている。なお、豪州東部の一部では、生育期後半に洪水が発生したため、品質が低下する可能性がある。

GIWA(西オーストラリア州穀物団体)(2022.10.6)によれば、春の冷涼な天候で収穫の開始が遅れたものの、単収は予想を上回ると見られる。2022/23 年度の西オーストラリア州(WA 州)の小麦生産量は、前月予測を 0.5 百万トン上方修正され 12.6 百万トン(前年度 12.9 百万トン)の見込み。なお、中央部、南部の一部では降雨により更に収穫が遅れており、今後も降雨が続くと品質が低下する可能性がある。なお、穀物等全体の生産量は過去最高の 2021/22 年度を超えるとみられている。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report」(2022.9.6)によれば、2022/23 年度の主要生産州別の生産量は、WA 州では、史上最高であった前年度に比べ 14%減少の 11.0 百万トン。ニューサウスウェールズ州(NSW 州)では、前年度に比べ 20%減少するものの、過去 5 年平均を 50%上回る 10.2 百万トン。

【貿易情報・その他】USDA によれば、11 月 7 日時点の豪州産輸出価格(FOB)は、アジアの輸入需要が旺盛なことから、10 月 10 日時点の 376 ドル/トンから 20 ドル/トン上昇し、396 ドル/トン。

2022/23 年度の輸出量は、生産量の上方修正により、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、26.0 百万トン。前年度(27.5 百万トン)に比べ 5.6%減少するものの、前年度に次ぎ史上 2 番目の見込み。

豪州統計局によれば、2022 年 9 月の輸出量は 180.7 万トンと、前月(251.8 万トン)に比べ 28.2%減少。輸出先国は、インドネシア(23.6%)、中国(14.7%)、ベトナム(10.9%)の順。なお、ウクライナからの黒海経由の輸出が再開されたものの、3 年連続の豊作の見通しの豪州産穀物等への需要は高い。

また、2022 年 1 月から 9 月までの輸出量は前年同期(2044.1 万トン)を 9.4%上回る 2235.8 万トン。輸出先国は、中国(20.3%)、インドネシア(14.0%)の順。前年(1 月から 12 月)に 294.3 万トンであった中国向けの輸出量は、本年 9 月までにすでに 454.3 万トンまで増加している。

## 小麦—豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23(22年10月～23年9月)			
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	31.9	36.4	34.5 (33.5)	1.5	▲ 5.1	
消費量	8.0	8.5	8.6 (8.5)	-	0.2	
うち飼料用	4.5	5.0	5.0 (4.9)	-	-	
輸出入量	23.8	27.5	26.0 (25.2)	1.0	▲ 5.6	
輸入量	0.2	0.2	0.2 (0.4)	-	▲ 4.8	
期末在庫量	3.0	3.5	3.7 (3.7)	0.5	4.3	
期末在庫率	9.4%	9.7%	10.6% (10.9%)	1.2	0.9	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	12.64	13.04	13.10 (13.1)	-	0.5	
単収(t/ha)	2.52	2.79	2.63 (2.57)	0.11	▲ 5.7	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(20 October 2022)

## 写真:豪州東部の NSW 州の小麦圃場(2022.11.3)



ニューサウスウェールズ州リートン近郊で 10 月の降雨量が 120 mm を超えたため、縮さび病対策として農薬を散布している。10 月に入り、多雨と低温により、生育が遅れ、収穫が例年より 3 週間遅れている。

## 表 豪州の小麦輸出量及び輸出先国

2022年9月			2022年1月～9月		
国名	輸出量(万トン)	シェア(%)	国名	累積輸出量(万トン)	シェア(%)
インドネシア	42.7	23.6	中国	454.3	20.3
中国	26.5	14.7	インドネシア	313.7	14.0
ベトナム	19.7	10.9	フィリピン	253.3	11.3
日本	15.2	8.4	ベトナム	254.9	11.4
マレーシア	15.1	8.4	韓国	145.7	6.5
その他	61.5	34.0	その他	813.9	36.4
合計	180.7	100.0	合計	2,235.8	100.0

資料:豪州統計局の資料をもとに農林水産省で作成

## < EU27+英国 > 2023/24 年度の冬小麦の生育状況は大部分のEU諸国で良好

【生育・生産状況】欧州委員会(2022.10.27)によれば、EU27 の 2022/23 年度の生産量は、前月予測に比べわずかに上方修正されたものの、前年度に比べ 1.8%減少の 135.5 百万トンの見込み。

そのうち、普通小麦の生産量は、フランス等で下方修正されたものの、ポーランド等で上方修正されたことから、前月予測に比べ 0.1 百万トン上方修正の 128.2 百万トン。デュラム小麦は、スペイン等で下方修正されたことから、前月予測から 0.1 百万トン下方修正の 7.3 百万トン。

また、USDA によれば、EU27 の生産量は、前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、134.3 百万トン、英国の生産量は前月予測から 0.8 百万トン上方修正され、15.4 百万トン。EU27 と英国の生産量の合計は 149.7 百万トンの見込み。

EU 諸国では、2023/24 年度の冬小麦の播種が開始されている。冬小麦の生育は、イタリア中部、北部を除き、欧州の大部分で降雨があり順調である。

フランスアグリメールによれば、11 月 7 日現在、2023/24 年度のフランスの播種進捗率は、普通小麦が前年度同時期 86%を上回る 92%、デュラム小麦が同 36%を上回る 50%。発芽進捗率は、普通小麦が前年度同時期 61%を上回る 76%、デュラム小麦は同 4%を上回る 13%である。また、作柄状況(とても良い～良い)の評価は、普通小麦が前年度同時期の 99%とほぼ同程度の 98%。

【貿易情報・その他】USDA によれば、干ばつによるとうもろこしの減産から、EU27 における小麦の飼料用需要は前月予測に比べ、0.5 百万トン上方修正され 45.5 百万トン。また、輸入量は、前月予測に比べ、0.5 百万トン上方修正され 6.0 百万トンの見込み。

EU27 の輸出量は、前月予測からの変更はなく 35.0 百万トンの見込み。7 月の高温乾燥による生産量の減少も、ウクライナの輸出減少分が EU 産にシフトし前年度に比べ 9.7%増加する見込み。

欧州委員会によれば、2022/23 年度(2022 年 7 月から 2023 年 6 月)のうち、2022 年 8 月の輸出量は、普通小麦が 421.4 万トン(前年度同月 348.6 万トン)、デュラム小麦が 7.0 万トン(同 8.4 万トン)。

輸出先国は、普通小麦がアルジェリア(19.6%)、エジプト(8.5%)、デュラム小麦がチュニジア(58.1%)、リビア(15.9%)の順となっており、輸出先はアフリカ諸国が中心となっている。また、英国の輸出量は、EU27 ヶ国向けの輸出量の増加により前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、1.3 百万トンの見込み。なお、EU27 の期末在庫率は史上最低の 9.5%の見込み。

## 小麦－EU27+英国 (冬小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年7月～23年6月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	136.4	152.3	149.7 (148.8)	0.4	▲ 1.7
消費量	118.2	123.7	125.1 (123.2)	0.7	▲ 1.1
うち飼料用	48.5	52.4	53.3 (50.7)	0.7	▲ 1.7
輸 出 量	30.2	32.7	36.3 (37.6)	0.3	▲ 10.9
輸 入 量	8.6	7.2	7.8 (7.3)	0.3	▲ 7.7
期末在庫率	12.1	15.2	11.4 (13.7)	▲ 0.3	▲ 25.3
期末在庫率	8.2%	9.7%	7.1% (8.5%)	▲ 0.1	▲ 2.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	22.97	24.25	24.25 (25.91)	▲ 1.80	-
単収(t/ha)	5.94	6.28	6.17 (5.74)	▲ 0.02	▲ 1.7

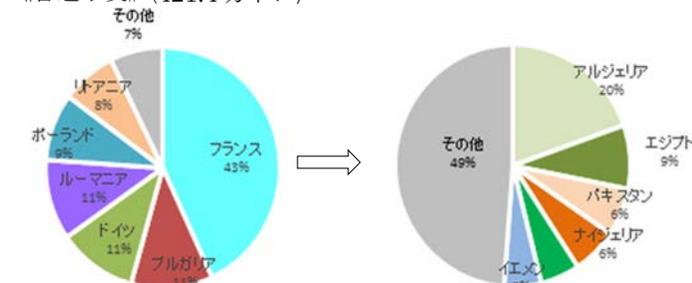
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)

IGC 「Grain Market Report」(20 October 2022)

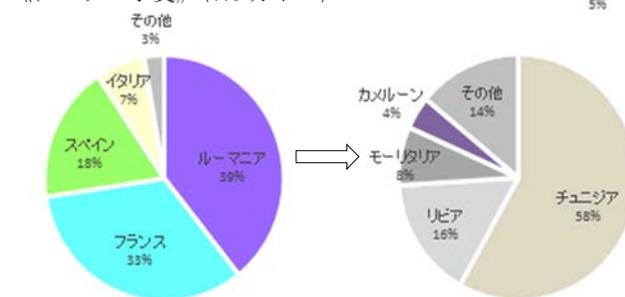
表内及び ( ) 内のデータはEU27ヶ国+英国のデータ

## 図 EU27 ヶ国の普通小麦、デュラム小麦の輸出元国と輸入先国 (2022 年 8 月)

《普通小麦》〈421.4 万トン〉



《デュラム小麦》〈7.0 万トン〉



EC(欧州委員会)「Cereals exports and imports」(2022.10.30)をもとに農林水産省で作成。

## < 中国 >2022/23 年度の小麦生産量は、史上第 1 位の 138 百万トン

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2022.11.4)によれば、2022/23 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ 1.1%増加の 138.4 百万トン(史上最高)の見込み。作期別には、冬小麦、春小麦とも前月予測からの変更はなく、生産量はそれぞれ 131.9 百万トン(対前年度 0.4%増)、6.5 百万トン(同 17.7%増)の見込み。主要生産省別の生産量は、冬小麦が河南省 37.6 百万トン(生産量シェア:28.5%)、山東省 26.4 百万トン(同 20.0%)、安徽省 17.2 百万トン(同 13.0%)である。

中央气象台によれば、2023/24 年度の冬小麦の播種は、全国の冬小麦生産地で十分な土壌水分や晴天に恵まれたことから、2023/24 年度の冬小麦の播種と発芽は順調に進んでいる。農業農村部によれば、11 月 14 日現在、冬小麦の播種進捗率は 95.4%で、降雨過多により遅れた前年度同時期(93%)を上回った。中国糧油情報センターによれば、冬小麦の播種面積は前年度並みの見込み。

現地情報会社によれば、中国政府からの農業資材補助金の給付や国内小麦価格の上昇による農家収益の向上のため、栽培コスト増による 2023/24 年度の播種面積への影響は少ないと見られる。

【貿易情報・その他】中国糧油情報センターによれば、輸入量は前月からの変更はなく、前年度(9.6 百万トン)から 18.4%減少の 7.8 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2022 年 9 月の輸入量は、前年度同期(63.7 万トン)を 42.9%下回る 36.4 万トン。輸入先国は、豪州が 31.1 万トン(85.3%)で大部分を占めている。中国糧油情報センターによれば、本年度は中国産小麦の豊作と良好な品質から輸入小麦に対する需要が減少し、前年同月に比べ 9 月の輸入量はかなり減少した。また、2022 年 1 月～9 月の輸入量は、前年同期(756.7 万トン)を 13.2%下回る 656.6 万トン。輸入先国は、豪州、フランス、カナダの順で、輸入シェアはこの 3ヶ国で 99.7%。一方、本年 2 月にロシア産小麦の輸入に関する植物検疫上の地域限定の撤廃に合意しているものの、ロシア産の輸入は 0.2 万トンと前年度(4.7 万トン)を下回っている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2022 年 9 月号」によれば、9 月は、気温の低下に伴い小麦粉やふすまの需要が増加したため、製粉業者の小麦仕入量は比較的高水準を維持。また、卸売業者は、資金と倉庫スペースの確保から積極的に小麦を売却し、秋の穀物の買付に備えている。小麦の供給量は十分で、小麦価格は全体的に安定した。今後は、国内の小麦需給に余裕があるものの、国内小麦価格は高水準を保ちながら小幅上下すると見られる。

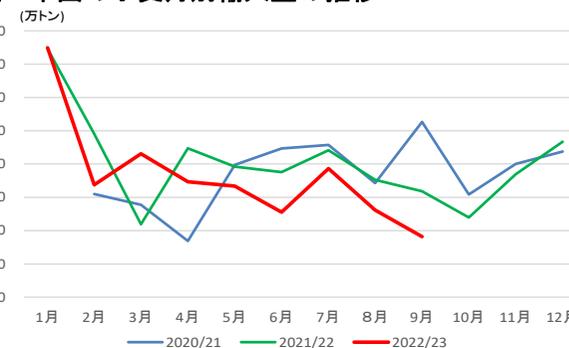
## 小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23(22年7月～23年6月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	134.3	137.0	138.0 (138.0)	-	0.8
消費量	150.0	148.0	144.0 (139.6)	-	▲ 2.7
うち飼料用	40.0	35.0	30.0 (25.0)	-	▲ 14.3
輸 出 量	0.8	0.9	0.9 (1.1)	-	2.3
輸 入 量	10.6	9.6	9.5 (8.2)	-	▲ 0.7
期末在庫量	144.1	141.8	144.4 (138.5)	-	1.8
期末在庫率	95.6%	95.2%	99.6% (98.5%)	-	4.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.38	23.57	23.60 (23.6)	-	0.1
単収(t/ha)	5.74	5.81	5.85 (5.84)	-	0.7

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(20 October 2022)

## 図 中国の小麦月別輸入量の推移



資料:中国海関統計(2022. 10. 20)をもとに農林水産省で作成資料

## 表 中国の小麦輸入量及び輸入先国

(輸出量:万トン、シェア%)

2022年9月			2022年1月～2022年9月			2021年1月～2021年9月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
豪州	31.1	85.3	豪州	451.6	68.8	カナダ	244.7	32.3
カナダ	4.9	13.6	フランス	144.5	22.0	米国	231.0	30.5
米国	0.4	1.1	カナダ	58.2	8.9	豪州	187.5	24.8
ロシア	0.0	0.0	カザフスタン	1.7	0.3	フランス	65.4	8.6
-	-	-	米国	0.4	0.1	カザフスタン	16.8	2.2
-	-	-	ロシア	0.2	0.0	ロシア	6.6	0.9
-	-	-	-	-	-	ロシア	4.7	0.6
-	-	-	-	-	-	その他	0.0	0.0
計	36.4	100.0	計	656.6	100.0	計	756.7	100.0

資料:中国海関統計(2022. 10. 20)をもとに農林水産省で作成資料

## < ロシア > 生産量は史上最高の 91.0 百万トン

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量(クリミア地域分を含まず)は、前月予測からの変更はなく91.0百万トンと、前年度に比べ21.1%増加し、史上最高となる見込み。

作期別の生産量は、冬小麦、春小麦とも前月予測からの変更はなく、それぞれ68.0百万トン、23.0百万トンの見込み。前年度に比べ、生産量は冬小麦が30.3%増加し、春小麦が0.2%増加した。

ロシア農業省の速報値によれば、11月8日時点で、収穫済み面積は29.2百万ヘクタール、収穫進捗率は99.1%となり、重量調整前の収穫量は104.9百万トン(前年度同時期34.5%増)である。

一方、同省によれば、11月8日時点で、2023/24年度の冬穀物の播種済み面積は、対前年度同期3.6%減の17.5百万ヘクタール。中央連邦管区の黒土地帯では秋の長雨により冬穀物の播種作業が遅延し、一部で播種計画が未達になる見込み。来年、未播種の圃場では春穀物が播種されるとみられる。現地情報会社によれば、2023/24年度の冬小麦の生育段階は発芽から分けつ期で、10月末には気温の低下で生長が停止した。作柄は、良好から並となっている。

なお、ロシア連邦政府は、各地方政府に2023/24年度も2022/23年度並の生産量や播種面積の維持を勧告した。現地の農業企業では、播種面積の縮小の予定はないものの、肥料等の値上がりにより、栽培コストが前年度に比べ40%上昇する見込みの一方、穀物価格の低迷により収益の確保が難しいとみられている。ロシア穀物同盟では、収益率の低下から播種面積縮小の可能性もあるとみている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく前年度に比べ27.3%増加の42.0百万トン。11月7日時点のロシア産輸出価格(FOB)は、黒海の港湾情勢の不安定さから、10月10日から7ドル/トン下落し主要輸出国では最低の320ドル/トン(輸出税含む)。

現地情報会社によれば、10月の輸出量は471.6百万トンで前年度同月(335.3万トン)を40.7%上回ったものの、2022/23年度のうち、2022年7月から同年10月の輸出量は1456.4万トンで過去3年の同時期平均(1532.1万トン)を4.9%下回った。同期間の輸出先国は、エジプト(17.2%)、トルコ(16.6%)、イラン(11.5%)。2022/23年度に入った当初、輸出ペースは比較的低調であったものの、価格競争力が高いことから今後のロシアの輸出量は増加すると見られている。

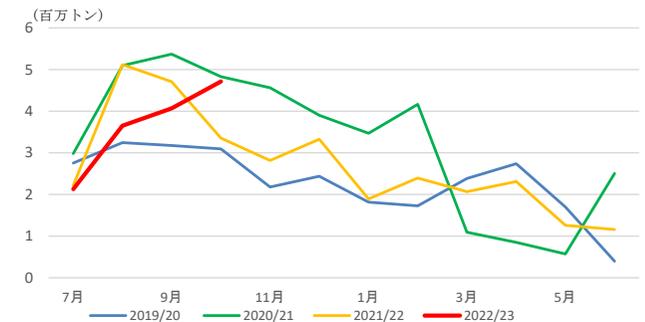
ロシア農業省によれば、2023年2月15日から同年6月30日に設定される予定の穀物輸出枠については、穀物全体(小麦を含む)の輸出枠量を2,550万トンにすることで検討がされている。

## 小麦一口ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培) (単位:百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23(22年7月～23年6月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	85.4	75.2	91.0 (95.4)	-	21.1
消費量	42.5	42.8	45.0 (45.8)	-	5.3
うち飼料用	19.0	19.5	21.0 (20.5)	-	7.7
輸出量	39.1	33.0	42.0 (36.6)	-	27.3
輸入量	0.4	0.3	0.3 (0.2)	-	-
期末在庫量	11.4	11.1	15.4 (24.5)	-	38.8
期末在庫率	13.9%	14.6%	17.7% (29.7%)	-	3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.68	27.63	28.70 (28.7)	-	3.9
単収(t/ha)	2.98	2.72	3.17 (3.32)	-	16.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(20 October 2022)

図: ロシア産小麦の月別輸出量の推移



資料: 現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

表: ロシア産小麦の輸出量と輸出先国 (輸出量:万トン、シェア:%)

2022/23年度 (2022年10月)			2022/23年度 (2022年7月～2022年10月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
トルコ	91.3	19.4	エジプト	250.7	17.2
エジプト	65.2	13.8	トルコ	241.3	16.6
バングラデシュ	37.9	8.0	イラン	168.1	11.5
サウジアラビア	28.2	6.0	サウジアラビア	112.7	7.7
アルジェリア	25.9	5.5	カザフスタン	100.2	6.9
イラン	24.9	5.3	スーダン	45.6	3.1
スーダン	24.9	5.3	バングラデシュ	43.2	3.0
その他	173.3	36.7	その他	494.6	34.0
計	471.6	100.0	計	1,456.4	100.0

資料: 現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

## <ウクライナ>2023/24年度の冬小麦の播種進捗率は91.3%(11月7日時点)

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量(クリミア地域分を含む)は、前月予測からの変更はなく、20.5百万トンの見込み。ロシアの侵攻により、前年度に比べ、収穫面積が29.1%、単収が12.4%減少し、生産量は史上最高だった前年度(33.0百万トン)に比べ37.9%減少、過去5年平均に比べ26.6%減少する見込み。

ウクライナ農業政策食料省(2022.11.11)によれば、2022/23年度の小麦全体の収穫面積は4.70百万ヘクタール(前年度7.00百万ヘクタールに比べ32.7%減)、収穫量は19.4百万トン(同32.2百万トン、40.3%減)、単収は4.12トン/ヘクタール(同4.62トン/ヘクタール、0.5ポイント減)。

また、同省によれば、11月7日時点で、2023/24年度の冬小麦の播種済面積は3.64百万ヘクタールで播種進捗率は91.3%となった。なお、播種予定面積は前年度(6.69百万ヘクタール)を40.4%下回る3.99百万ヘクタール。生育状況は、10月末時点で、主産地のウクライナ東部で気温が低い状態が継続したため3～4週間程度生長が遅れている。

【貿易状況・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ41.6%減少の11.0百万トンの見込み。

現地情報会社によれば、10月の小麦輸出量は前月に比べ17.3万トン増加したものの、前年度同月比では42.7%減の195.7万トン。また、2022/23年度のうち、2022年7月から同年10月の輸出量は、黒海の港湾からの輸出再開で輸出量が増加したものの、前年度同期に比べ59.1%減の499.7万トン。

なお、市場関係者によれば、2022/23年度の小麦のタンパク質含有量が低く、タンパク質含有量が11.5%とされる標準的な輸出契約の要件への懸念が生じるとの見方もある。

黒海穀物イニシアチブ「国連共同調整センター」によれば、10月31日現在、合意に基づく8月から10月までの黒海港湾からの輸出量は972.9万トン。そのうち小麦の輸出量は276.2万トンと全体の28.4%。輸出先国は、スペイン72.6万トン(26.3%)、トルコ49.9万トン(18.1%)、バングラデシュ26.9万トン(9.7%)の順。USDAによれば、ここ数ヶ月、港湾能力が限られる中、ウクライナ産とうもろこしや、豊作が見込まれるロシア産小麦との競合が小麦輸出の制約要因となっている。なお、国連、ウクライナ、ロシア、トルコの4者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意は、11月19日で当初設定された120日間の期限を迎えたが、再度120日延長(2023年3月19日まで)された。

## 小麦－ウクライナ (主に冬小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23(22年7月～23年6月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	25.4	33.0	20.5 (21.5)	-	▲ 37.9
消費量	8.7	10.0	10.7 (8.2)	-	7.0
うち飼料用	2.6	4.0	5.5 (2.9)	-	37.5
輸 出 量	16.9	18.8	11.0 (13.0)	-	▲ 41.6
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	▲ 28.6
期末在庫量	1.5	5.8	4.7 (7.6)	-	▲ 18.9
期末在庫率	5.9%	20.1%	21.7% (35.7%)	-	1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.85	7.41	5.25 (5.5)	-	▲ 29.1
単収(t/ha)	3.71	4.45	3.90 (3.90)	-	▲ 12.4

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(20 October 2022)

## 写真:分けつ期を迎えた冬小麦(2022.11.2)



約 2000ha の圃場で冬小麦の播種が行った。本年度は、越冬のストレスを少なくするため春に施肥を行う以外は、肥料は高価なため、施肥は行わない予定。今のところ、冬作物は、水分も十分にあり、非常に良好な状態。

## 表:ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国 (輸出量:万トン、シェア%)

2022/23年度 (2022年10月)			2022/23年度 (2022年7月～2022年10月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
トルコ	32.2	16.5	トルコ	108.9	21.8
スペイン	31.3	16.0	ルーマニア	92.0	18.4
ルーマニア	27.9	14.3	スペイン	69.2	13.8
ポーランド	14.8	7.6	ポーランド	25.4	5.1
インドネシア	14.0	7.2	バングラデシュ	21.1	4.2
ベトナム	11.6	5.9	イタリヤ	18.5	3.7
アルジェリア	9.3	4.8	レバノン	18.2	3.6
その他	54.6	27.9	その他	146.4	29.3
計	195.7	100.0	計	499.7	100.0

資料:現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

## 2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

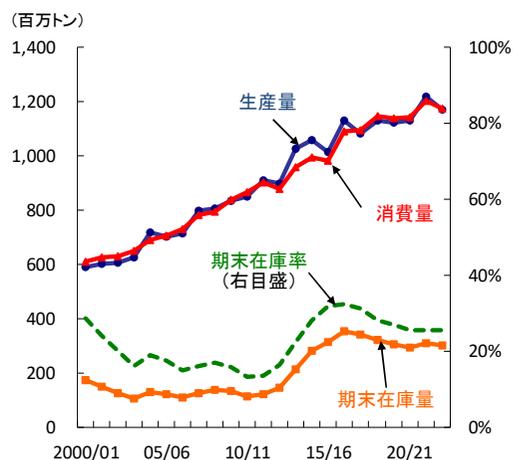
<米国農務省（USDA）の見通し> 2022/23 年度

**生産量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓  
 ・米国等で上方修正も、EU、南アフリカ等で下方修正され、前月から下方修正された。

**消費量** 前年度比 ↓ 前月比 ↑  
 ・EU、ベトナム等で下方修正も、米国、カナダ等で上方修正され、前月から上方修正された。

**輸出量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓  
 ・南アフリカで下方修正され、前月から下方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2022.11.9）をもとに農林水産省にて作成

## ◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,129.3	1,217.5	1,168.4	▲ 0.3	▲ 4.0
消費量	1,144.0	1,202.6	1,175.3	0.8	▲ 2.3
うち飼料用	724.0	752.0	740.3	0.1	▲ 1.5
輸 出 量	182.6	201.8	182.7	▲ 0.3	▲ 9.5
輸 入 量	184.9	183.9	177.6	▲ 1.4	▲ 3.4
期末在庫量	292.8	307.7	300.8	▲ 0.4	▲ 2.2
期末在庫率	25.6%	25.6%	25.6%	▲ 0.1	0.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 November 2022)

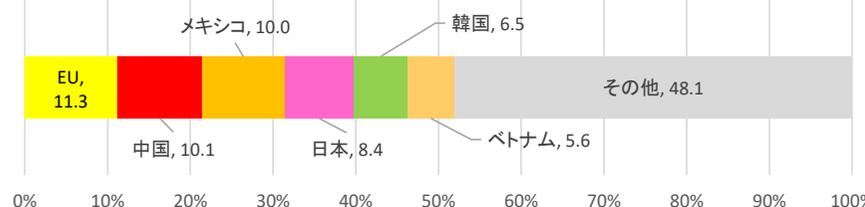
○ 2022/23 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,168.4 百万トン) (単位：%)



○ 2022/23 年度 世界のとうもろこしの輸出量(182.7 百万トン) (単位：%)



○ 2022/23 年度 世界のとうもろこしの輸入量(177.6 百万トン) (単位：%)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 生産量は収穫面積・単収減少により減産、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、11月1日時点の作柄を踏まえ、イリノイ州、アイオワ州、インディアナ州等中西部の主産州の単収の上方修正により前月予測から0.9百万トン上方修正されたものの、夏季のコーンベルトの一部での高温・乾燥の影響から前年度より7.6%減の353.8百万トンの見込み。なお、収穫面積は、2015/16年度以来の低水準の見込み。

USDA「Crop Progress」(2022.11.14)によれば、収穫期の天候に恵まれ、主要18州における収穫進捗率は93%と前年度同期(90%)及び過去5年平均(85%)より進んでいる。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、生産量の上方修正に伴い、飼料用消費量が前月予測から0.6百万トン上方修正されたものの、前年度より3.7%減の305.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より13.0%減の54.6百万トンの見込み。

USDA「Feed Outlook」(2022.11.14)によれば、ミシシッピ川流域の降雨不足により、10月の水位が1927年の観測開始以来の最低水準となるなど、はしけ輸送に一部支障が出ており、10月のはしけ運賃が前年の3倍程度に上昇した。

USDAによれば、2022年輸出検証高(2022年1月6日～11月3日)は、46.2百万トンであり、内訳は中国(13.7百万トン)、メキシコ(12.2百万トン)、日本(8.5百万トン)、コロンビア(2.8百万トン)の順である。

USDAによれば、2022/23年度の期末在庫量は、前月予測から0.3百万トン上方修正されたものの、生産量の大幅な減少から前年度より14.2%減の30.0百万トンで2012/13年度以来最低の見込み。期末在庫率は8.3%で、前年度より低下し、引き続き低水準の見込み。

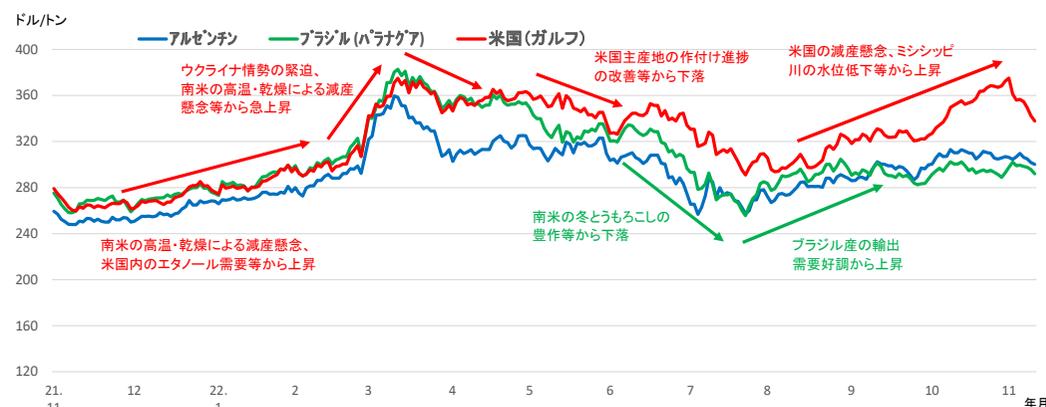
とうもろこし—米国

(単位：百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年9月～23年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	358.5	382.9	353.8	0.9	▲ 7.6
消費量	306.7	317.1	305.5	0.6	▲ 3.7
うち飼料用	142.4	145.2	134.6	0.6	▲ 7.3
エタノール用等	127.7	135.3	134.0	-	▲ 1.0
輸出量	69.8	62.8	54.6	-	▲ 13.0
輸入量	0.6	0.6	1.3	-	104.8
期末在庫量	31.4	35.0	30.0	0.3	▲ 14.2
期末在庫率	8.3%	9.2%	8.3%	0.1	▲ 0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.31	34.53	32.72	-	▲ 5.2
単収(t/ha)	10.76	11.09	10.82	0.03	▲ 2.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格 (FOB) の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

## ＜ ブラジル ＞ 生産量は史上最高、輸出増の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より8.6%増の126.0百万トンで史上最高の見込み。

ブラジル食料供給公社（CONAB）月例報告（2022.11.9）によれば、現在作付け中の2022/23年度の夏とうもろこしの生産量は、単収の増加により、前年度比12.5%増の28.2百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けされる冬とうもろこしの生産量は、前年度比11.9%増の98.2百万トンの見込み。夏作・冬作の合計では前年度比12.0%増の126.4百万トンで史上最高の見込み。（P.23 大豆－ブラジルのクロープカレンダー参照）。

11月上旬から中旬にかけて、多くの産地で平年以下の降水量となっている。南部のパラナ州で11月7日現在、2022/23年度の夏とうもろこしの作付進捗率は93%と前年度同期（98%）より遅れている。南部のリオ・グランデ・ド・スール州で11月17日現在、夏とうもろこしの作付進捗率は80%と過去5年平均（84%）より遅れている。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より5.5%増の77.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、前年度より5.6%増の47.0百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2022年1～10月の輸出量は31.5百万トンで、前年同期（14.6百万トン）と比べ2.2倍となっている。内訳は、1位がイラン5.2百万トン、2位が日本3.7百万トン、3位がエジプト3.6百万トン。ロシアのウクライナ侵攻により、ウクライナ産の輸出が影響を受けており、代替としてブラジル産の中東・EU向け輸出が大幅に増加した。なお、10月の輸出量は6.8百万トンで、前年同月（1.8百万トン）と比べ、3.8倍となっている。

なお、11月2日に中国海関（税関）がブラジル産とうもろこしの対中輸出業者のリストを更新したとの報道があり、早ければ本年末にも対中国向け輸出が開始されるとみられている。

※報道によれば、11月23日付けで対中国向け輸出が開始された模様。

## とうもろこし－ブラジル

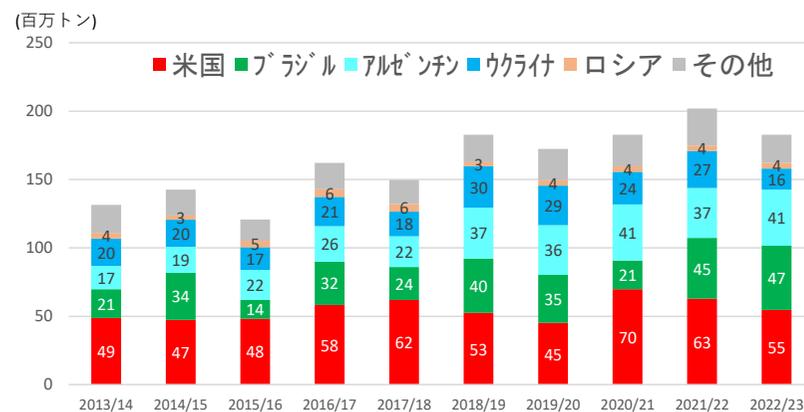
（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4）

（単位：百万トン）

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (23年3月～24年2月)			
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	87.0	116.0	126.0 (123.1)	-	8.6	
消費量	70.0	73.0	77.0 (77.6)	-	5.5	
うち飼料用	59.5	62.0	65.5 (55.5)	-	5.6	
輸出量	21.0	44.5	47.0 (44.6)	-	5.6	
輸入量	2.9	2.3	1.3 (0.5)	-	▲ 43.5	
期末在庫量	4.2	5.0	8.3 (6.1)	-	66.7	
期末在庫率	4.6%	4.2%	6.7% (5.0%)	-	2.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	19.90	21.80	22.70 (21.80)	-	4.1	
単収(t/ha)	4.37	5.32	5.55 (5.65)	-	4.3	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)  
IGC「Grain Market Report」(20 October 2022)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2022.11.9)のデータをもとに農林水産省にて作成

## ＜ アルゼンチン ＞ 生産量は史上最高、輸出増の見通し（輸出税継続）

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、単収の増加により、前年度より6.8%増の55.0百万トンで史上最高の見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2022.11.17）によれば、2022/23年度の作付進捗率は24%で、過去5年平均（36%）より12ポイント遅れている。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より4.8%減の14.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、前年度より12.3%増の41.0百万トンと史上最高の見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2022年1～9月の輸出量は30.2百万トンで、前年同期（31.5百万トン）より4.0%減。内訳は、1位がベトナム4.4百万トン、2位が韓国4.0百万トン、3位がエジプト2.4百万トン。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月14日、輸出税を約7%から12%へ引き上げ、その後継続している。

2021年12月17日、アルゼンチン農牧漁業大臣がとうもろこしと小麦の輸出に関し、輸出上限数量を設定することを表明。11月中旬現在、とうもろこしの輸出上限数量は2021/22年度36百万トン、2022/23年度20百万トンと設定されている。

## とうもろこしーアルゼンチン

（単位：百万トン）

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (23年3月～24年2月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	52.0	51.5	55.0 (60.6)	-	6.8
消費量	13.5	14.7	14.0 (20.7)	-	▲ 4.8
うち飼料用	9.5	10.8	10.0 (15.8)	-	▲ 7.4
輸 出 量	40.9	36.5	41.0 (41.0)	-	12.3
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.4)	-	-
期末在庫量	1.2	1.5	1.5 (2.8)	-	-
期末在庫率	2.2%	2.9%	2.7% (4.5%)	-	▲ 0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.55	7.40	7.00 (8.20)	-	▲ 5.4
単収(t/ha)	7.94	6.96	7.86 (7.40)	-	12.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)  
IGC「Grain Market Report」(20 October 2022)

写真：北部サンタフェ州のとうもろこしの圃場風景  
(11月6日撮影)

10月中旬に作付け。収穫は2023年3月前半の予定。



## < 中国 > 生産量、消費量ともに史上最高、輸入量減少の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、主産地の黒竜江省等東北地区及び華北平原で生育期を通じて良好な天候に恵まれたことから、単収の増加により、前年度より0.5%増の274.0百万トンで史上最高の見込み。なお、政府補助金による大豆生産奨励策により作付けが大豆にシフトし、収穫面積は減少する見込み。

中国中央気象台によれば、11月上旬現在、東北地区の春とうもろこし、河南省等の夏とうもろこしの収穫はすでに終了。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、旺盛な飼料用消費から前年度より1.4%増の295.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、主要な輸入先であるウクライナの輸出減少に伴い、前年度より17.7%減の18.0百万トンの見込み。

中国の貿易統計によれば、2022年1～9月の輸入量は18.5百万トンで、前年同期比で26.0%減。内訳は、米国産13.3百万トン（72%）、ウクライナ産4.9百万トン（27%）。5月以降、前年同月に比べウクライナ産の輸入が大幅に減少している。（右図参照）

なお、11月2日に中国海関（税関）が従来ほとんど輸入のなかったブラジル産とうもろこしの輸出業者のリストを更新したとの報道があり、早ければ本年末にも輸入が開始されると思われる。※報道によれば、11月23日付けで輸出が開始された模様。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報2022年9月号」によると、9月の国内流通価格は、2,920元/トンと前月（2,800元/トン）から上昇。主な要因は、9月は一部地域で新穀とうもろこしが市場に出荷され始めたものの、本年は肥料・地代の高騰により作付けコストが大幅に上昇した上に、養豚収益の回復による飼料用消費量が増加したためである。また、9月の輸入価格は、米国の生産量の下方修正、欧州の干ばつによる減産を受けて、3,060元/トンと前月（2,860元/トン）から上昇。他の穀物の代替輸入等も含め、今後の中国の輸入動向に注視が必要。

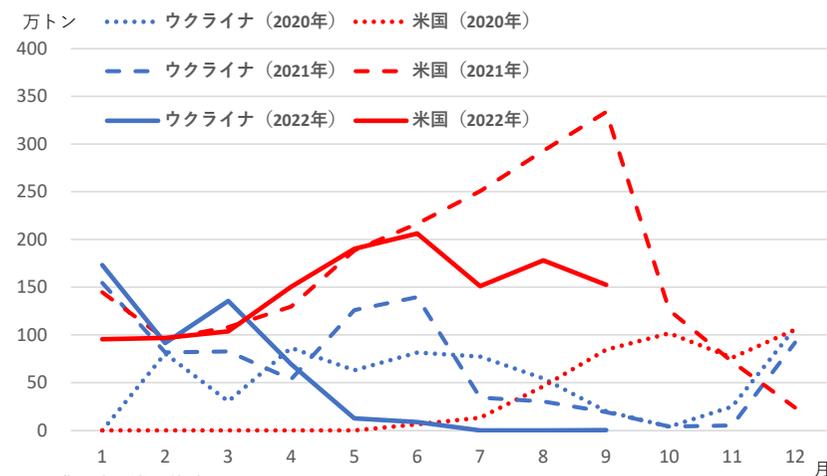
## とうもろこし—中国

（単位：百万トン）

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年10月～23年9月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	260.7	272.6	274.0 (275.3)	-	0.5
消費量	285.0	291.0	295.0 (307.5)	-	1.4
うち飼料用	203.0	209.0	214.0 (205.2)	-	2.4
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	29.5	21.9	18.0 (19.0)	-	▲ 17.7
期末在庫量	205.7	209.1	206.1 (175.0)	▲ 0.1	▲ 1.4
期末在庫率	72.2%	71.9%	69.9% (56.9%)	▲ 0.0	▲ 2.0
（参考）					
収穫面積(百万ha)	41.26	43.32	43.00 (43.00)	-	▲ 0.7
単収(t/ha)	6.32	6.29	6.37 (6.40)	-	1.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)  
IGC「Grain Market Report」(20 October 2022)

図：中国におけるウクライナ、米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

## < ウクライナ > ロシアによる侵攻により、輸出量は前年度より4割減

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、ロシアによるウクライナ侵攻の影響で、燃料や肥料等の生産資材不足もあり、収穫面積及び単収の減少から、史上最高の生産量となった前年度より25.2%減の31.5百万トンの見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、11月17日時点で、収穫済面積は2.1百万ヘクタール、収穫量12.3百万トン、収穫進捗率は50%となっている。

USDA「Feed Outlook」(2022.11.14)によれば、農家は燃料費不足と保管能力の減少に直面しているため、一部のとうもろこしは未収穫のままとなるとみられている。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、生産量の減少に伴い、前年度より6.1%減の10.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より42.6%減の15.5百万トンの見込み。

ウクライナ農業政策食料省発表によれば、10月の輸出量は232万トンで、前月(226万トン)に比べ2.5%増。2021/22年度(2021年10月～2022年9月)の累計輸出量は、25.6百万トンで、2020/21年度(23.9百万トン)に比べ7.3%増。

黒海穀物イニシアチブ「国連共同調整センター」によれば、輸出が再開された8月1日から10月末までの黒海港湾からのとうもろこし輸出量は419万トン、輸出先国は、スペイン(86万トン)、イタリア(60万トン)、トルコ(46万トン)等である。

11月17日に、11月19日に期限を迎えるウクライナからの穀物輸出再開に関する4者合意の120日間の延長が決定した。

また、2022/23年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度より2.2倍の9.9百万トンの見込みで、在庫が積み上がっている。

## とうもろこしーウクライナ

(単位：百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年10月～23年9月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	30.3	42.1	31.5 (29.9)	-	▲ 25.2
消費量	7.1	11.4	10.7 (10.9)	-	▲ 6.1
うち飼料用	5.9	10.2	9.5 (5.5)	-	▲ 6.9
輸 出 量	23.9	27.0	15.5 (17.0)	-	▲ 42.6
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 100.0
期末在庫量	0.8	4.6	9.9 (8.9)	-	116.0
期末在庫率	2.7%	11.9%	37.7% (31.9%)	-	25.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.40	5.49	4.50 (4.59)	-	▲ 18.0
単収(t/ha)	5.62	7.68	7.00 (6.52)	-	▲ 8.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)  
IGC「Grain Market Report」(20 October 2022)

図：とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移



資料：USDA「PS&D」(2022.11.9)をもとに農林水産省にて作成。

### 3 コメ

#### (1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

＜米国農務省（USDA）の見通し＞ 2022/23年度

**生産量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓

- ・パキスタン、ナイジェリア、ベトナム等で下方修正され、前月から下方修正された。

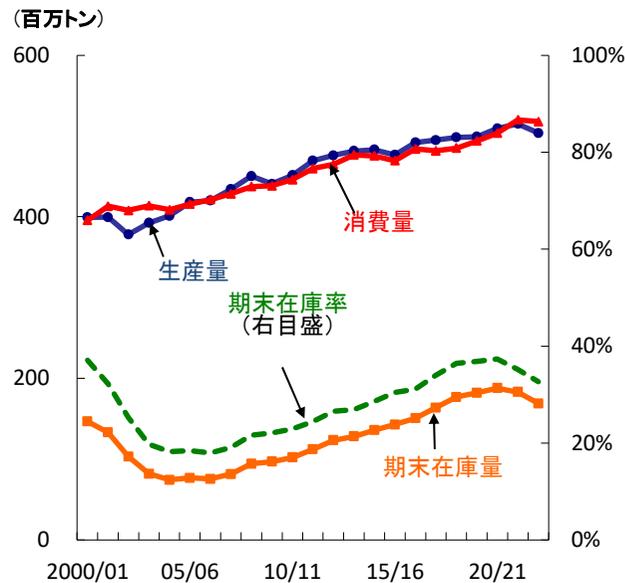
**消費量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓

- ・インドネシア等で上方修正されたものの、パキスタン、インド等で下方修正され、前月から下方修正された。

**輸出量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓

- ・インド等で上方修正されたものの、パキスタン、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2022.11.9）をもとに農林水産省にて作成

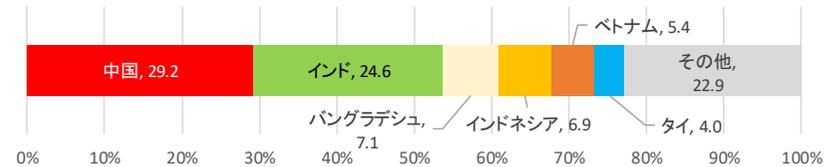
#### ◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

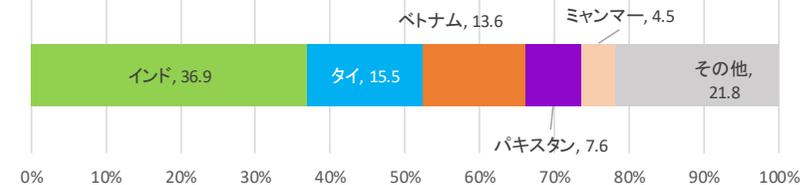
年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	509.3	515.1	503.7	▲ 1.4	▲ 2.2
消費量	503.5	519.9	517.8	▲ 0.3	▲ 0.4
輸出量	50.9	56.0	52.8	▲ 0.4	▲ 5.6
輸入量	46.4	54.6	51.4	▲ 0.0	▲ 5.8
期末在庫量	187.9	183.1	169.0	▲ 2.2	▲ 7.7
期末在庫率	37.3%	35.2%	32.6%	▲ 0.4	▲ 2.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 November 2022)

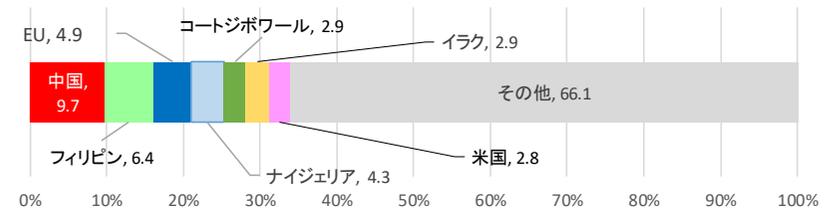
#### ○ 2022/23年度 世界のコメの生産量(503.7百万トン) (単位：%)



#### ○ 2022/23年度 世界のコメの輸出量(52.8百万トン) (単位：%)



#### ○ 2022/23年度 世界のコメの輸入量(51.4百万トン) (単位：%)



## (2) 国別のコメの需給動向

### < 米国 > 生産量減少により長粒種の価格が更に上昇

【生育・生産動向】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、単収の下方修正により、前月予測からわずかに下方修正され、対前年度比 14.3%減の 5.2 百万トンと、1993/94年度以来の低水準の見込み。収穫面積は、対前年度比で 12.9%減少し、1983/84年度以来の低水準。このうちミシシッピ川下流域（長粒種の主産地）では、農業資材の高騰、大豆やとうもろこしの収益性の方が高いこと、作付け期の降雨過多による作付け減少により、主産地のアーカンソー州等で収穫面積が減少する見通し。また中・短粒種の国内生産の 75%を占めるカリフォルニア州では、厳しい干ばつの長期化による灌漑用水不足や取水制限により、2年連続で収穫面積が減少し、1958/59年度以来の低水準となる見込み。なお、収穫は 10 月末でほぼ終了したとみられる。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測からわずかに上方修正されたものの、生産量の減少から対前年度比 6.2%減の 4.5 百万トンの見込み。

2022/23年度の輸入量は、前月予測からわずかに上方修正され、対前年度比 19.2%増の 1.4 百万トンと史上最高の見込み。タイの香り米が輸入の大半を占めているが、9 月には、主に加工用の碎米もブラジルから輸入された。

2022/23年度の輸出量は、輸出価格高騰による輸出競争力の低下見込みから、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、対前年度比 13.8%減の 2.3 百万トンと、1991/92年度以来の低水準の見込み。

同「Rice Outlook」(2022.11.14)によれば、長粒種の価格は供給量の減少によりここ数か月間上昇しており、11月8日までの週のイラク向け長粒種（2等、碎米4%混入）は 730 ドル/トンと、2008年10月初旬（772 ドル/トン）以来の高値となった（P.20の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照）。また、中粒種の価格は、地中海向けカリフォルニア米（1等、碎米4%混入）で 1,625 ドル/トンと、引き続き過去最高となった。

## コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは 1/4  
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約 2 割

(単位：百万精米トン)

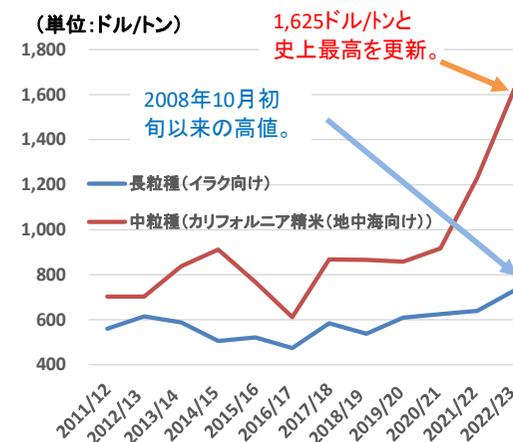
年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年 8月～23年 7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.2	6.1	5.2	▲ 0.0	▲ 14.3
消費量	4.9	4.8	4.5	0.0	▲ 6.2
輸出量	3.0	2.6	2.3	▲ 0.1	▲ 13.8
輸入量	1.1	1.2	1.4	0.0	19.2
期末在庫量	1.4	1.3	1.2	0.1	▲ 8.7
期末在庫率	17.8%	17.0%	17.0%	1.7	0.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	1.21	1.01	0.88	-	▲ 12.9
単収(もみt/ha)	8.54	8.64	8.46	▲ 0.06	▲ 2.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)

### 図：米国の長粒種と中粒種の輸出価格の推移



資料：USDA「Rice Outlook」(2022.11.14)より。価格は年度内の平均価格。

なお、2022/23年度は2022年11月の価格。

## < インド > モンスーン終了の遅れによりカリフ米の収穫に遅れ

【生育・生産動向】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、モンスーン期の降雨不足による作付け減少により、対前年度比 4.8%減の 124.0 百万トンの見込み。例年より南西モンスーンの終了が1週間から10日ほど遅れたため、インドのほぼ全土で10月に季節外れの降雨があり、主産地のウッタル・プラデーシュ州等北東部ではカリフ米の収穫が10月末にずれ込んだとのこと。

インド農業農民福祉省(2022.11.18)によると、ラビ米の作付け済面積は、11月17日時点で80.3万ヘクタールと、前年度同期(72.1万ヘクタール)に比べて8.2万ヘクタール増となっている。過去5年平均(2016/17 - 2020/21年度)の作付面積に対する進捗率は17.6%。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測から0.3百万トン下方修正され、生産量の減少により、対前年度比2.1%減の109.0百万トンの見込み。

2021/22年度の消費量は、政府の低所得世帯向け食料配給プログラム等によるコメの追加供給で、前月予測から0.5百万トン上方修正され、対2020/21年度比10.0%増の111.3百万トンと、史上最高となった。

2022/23年度の期末在庫量は、食料配給プログラム向けにコメを放出したこと等から、前月予測から1.3百万トン下方修正され、対前年度比13.2%減の29.5百万トンの見込み。なお、国内価格は9月の輸出規制により緩和され、収穫の遅れにもかかわらず10月も落ち着いている。

2022/23年度の輸出量は、競合相手であるパキスタンの輸出の下方修正に伴い、前月予測から0.5百万トン上方修正されたものの、対前年度比11.4%減の19.5百万トンの見込み。

なお、インドは、カリフ米の生産減少による国内価格高騰防止のため、9月9日に輸出規制(砕米(100%))の輸出禁止及びバスマティ米・パーボイルド米以外のコメへの輸出税課税(20%)を発動した。ただし、依然として世界の輸出量の37%を占め、世界第1位の輸出国となる見込み。

同「Grain: World Markets and Trade」(2022.11.9)によれば、インド産米(砕米5%混入)の11月8日までの価格は、385ドル/トンと前月から下落し、依然としてアジア主要輸出国の中で最も低い価格水準となっている(P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。

## コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

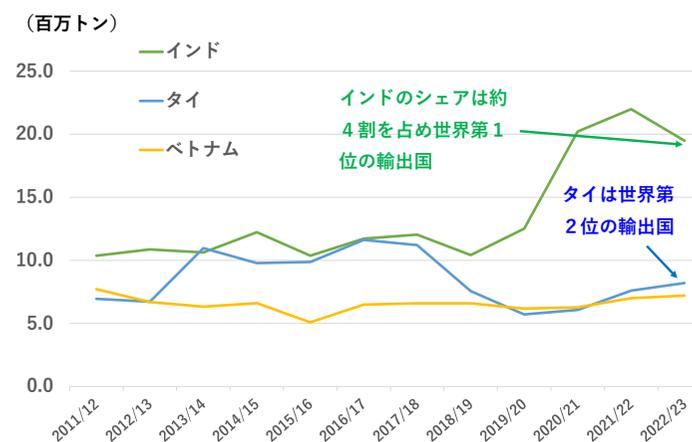
年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年10月~23年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	124.4	130.3	124.0 (124.3)	-	▲ 4.8
消費量	101.1	111.3	109.0 (109.3)	▲ 0.3	▲ 2.1
輸出量	20.2	22.0	19.5 (15.7)	0.5	▲ 11.4
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	37.0	34.0	29.5 (32.7)	▲ 1.3	▲ 13.2
期末在庫率	30.5%	25.5%	23.0% (26.2%)	▲ 1.0	▲ 2.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	45.77	46.38	45.50 (44.75)	-	▲ 1.9
単収(もみt/ha)	4.08	4.21	4.09 (2.78)	-	▲ 2.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)、  
IGC 「Grain Market Report」(20 October 2022) (単収は精米t/ha)

図:世界のコメの主要輸出国の輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2022.11.9)をもとに農林水産省にて作成

## < 中国 > 一期作の収穫は終了、二期作も収穫期を迎えている

【生育・生産動向】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比1.3%減の147.0百万トンの見込み。

国家糧油情報センター（2022.11.4）によれば、10月30日現在、黒竜江省と吉林省は稲の収穫が基本的に終了し、遼寧省は8割程度の稲が収穫された。江蘇省、安徽省などはジャポニカ米の大部分が収穫され市場に出荷されている。南部の主要産地では一期作インディカ米の収穫が終了し、大量に市場に出回っている。二期作晩稲も続々と収穫期を迎えている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用米の消費量の減少から、対前年度比0.9%減の155.0百万トンの見込み。

2022/23年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、碎米の主要輸入先国であるパキスタンの洪水による生産減少見通し及びインドのコメ輸出規制により、対前年度比16.0%減の5.0百万トンの見込み。中国は、とうもろこし等飼料用穀物の価格高騰を背景に、飼料用等として低価格の碎米をインド等から輸入していた。

中国海関統計によれば、2022年1～9月の輸入量は、対前年同期の3.6百万トンから41.4%増加し、5.0百万トンとなった。輸入先はインドが2.0百万トンと最も多く、次いでパキスタンが1.1百万トンとなっている。

USDAによれば、2022/23年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比4.6%減の107.8百万トンの見込み。なお、世界の期末在庫量のうち、中国が依然として約6割を占める見通し。

## コメー中国

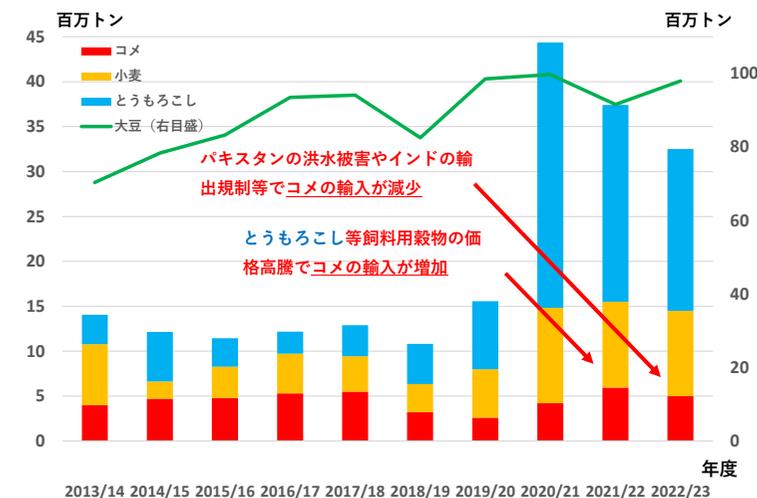
北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位：百万精米トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年7月～23年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	148.3	149.0	147.0 (146.3)	-	▲1.3
消費量	150.3	156.4	155.0 (151.4)	-	▲0.9
輸出量	2.2	2.1	2.2 (2.2)	-	5.8
輸入量	4.2	6.0	5.0 (3.0)	-	▲16.0
期末在庫量	116.5	113.0	107.8 (103.6)	-	▲4.6
期末在庫率	76.4%	71.3%	68.6% (67.5%)	-	▲2.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.08	29.92	30.00 (30.03)	-	0.3
単収(もみt/ha)	7.04	7.11	7.00 (4.87)	-	▲1.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)  
IGC「Grain Market Report」(20 October 2022) (単収は精米t/ha)

## 図：中国のコメ、小麦、とうもろこし、大豆の輸入量の推移



資料：USDA「PS&D」(2022.11.9)をもとに農林水産省にて作成

## < タイ > 2022/23 年度の生産量・輸出量は増加見通し

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、良好な天候と十分な降雨により、対 2020/21 年度比 5.3%増の 19.9 百万トンの見込み。

2022/23 年度の実績も、前月予測からの変更はなく、同様の気象条件を前提とすれば、雨季作及び乾季作の作付けが増え、収穫面積が拡大すると予測されることから、対前年度比 1.1%増の 20.1 百万トンの見込み。なお、10月末から乾季米の作付けが開始されているとみられる。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、豊作とインドの輸出規制による輸出量減少の見込みから、対前年度比 7.9%増の 8.2 百万トンの見込み。インドに次ぐ世界第 2 位のコメ輸出国となる見通し。

2021/22 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加により、対 2020/21 年度比 24.6%増の 7.6 百万トンの見込み。

タイ米輸出業者協会によれば、2022 年 1～9 月の輸出量は、対前年同期の 3.9 百万トンから約 39%増加し、5.4 百万トンとなった。輸出先はイラクが 1.1 百万トン（対前年度比 6.5 倍）、南アフリカが 0.6 百万トン（対前年度比微増）、米国が 0.5 百万トン（対前年度比 1.3 倍）、中国が 0.5 百万トン（対前年度比 1.3 倍）。

USDA「Rice Outlook」(2022.11.14)によれば、11月8日までの週のタイ産米（長粒、2等精米）の輸出価格は、パーツ安と新穀の入荷による供給増大により、10月11日までの週の価格から 12 ドル下落し、418 ドル/トンとなった（P.20 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照）。



写真：タイ中部バンレン市の圃場（11月3日撮影）  
2022/23 年度の乾季作の播種を控えて圃場を耕起。

## コメ・タイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

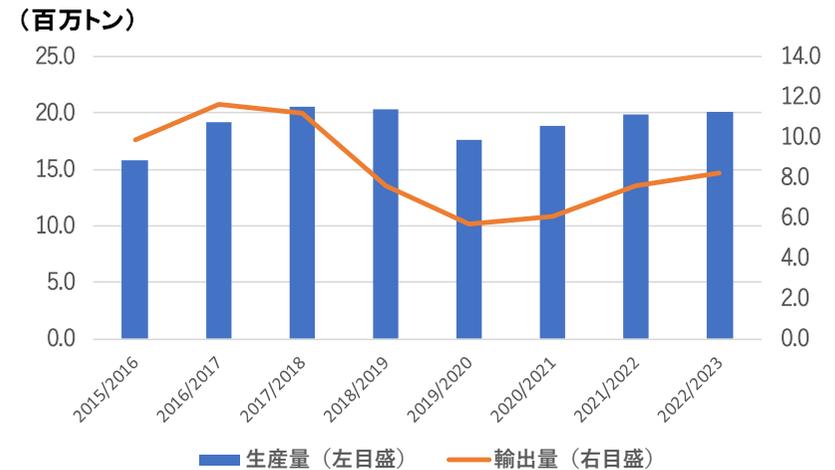
（単位：百万精米トン）

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (23年1月～23年12月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)	
生産量	18.9	19.9	20.1 (20.1)	-	1.1	
消費量	12.7	12.8	12.9 (12.3)	-	0.8	
輸出量	6.1	7.6	8.2 (8.3)	-	7.9	
輸入量	0.2	0.1	0.2 (0.3)	▲ 0.1	15.4	
期末在庫量	4.3	3.9	3.0 (6.4)	▲ 0.1	▲ 21.9	
期末在庫率	22.8%	19.0%	14.4% (31.0%)	▲ 0.6	▲ 4.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.51	10.70	10.85 (10.70)	-	1.4	
単収(もみt/ha)	2.72	2.81	2.81 (1.88)	-	-	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)

IGC「Grain Market Report」(20 October 2022) (単収は精米t/ha)

図：タイの生産量・輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2022.11.9)をもとに農林水産省にて作成

## < ベトナム > インドの輸出規制による代替需要増で輸出価格が更に上昇

【生育・生産動向】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、収穫面積が前月予測から0.01ヘクタール引き下げられたことにより、前月予測から0.2百万トン下方修正されたものの、対前年度比1.1%増の27.2百万トンの見込み。

なお、2021/22年度の実績は、前月予測から0.2百万トン下方修正され、収穫面積が5年連続で減少し、2006/07年度以来の低水準となったことから、対2020/21年度比1.8%減の26.9百万トンの見込み。なお、高収益作物（果物・野菜・養殖）への転作等により冬春作の収穫面積が減少したことや、メコン川の水量低下に伴う海水逆流による塩害の発生は、長期的な面積減少の主要因となっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比2.9%増の7.2百万トンの見込み。

2021/22年度の実績は、10月の輸出が予想以上だったことや、生産予測の下方修正にもかかわらず十分な輸出余力があることから、前月予測から0.1百万トン上方修正され、対2020/21年度比11.1%増の7.0百万トンの見込み。

ベトナム税関総局によれば、2022年1～9月の輸出量は5.4百万トンで、上位からフィリピン（2.5百万トン）、中国（0.6百万トン）、コートジボワール（0.5百万トン）となっている。うち、ジャポニカ米は0.2百万トン。

USDAによれば、2022/23年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、ベトナム国内で飼料向け等に利用されていたインドの碎米の輸出禁止措置により、対前年度比50.0%減の0.7百万トンの見込み。

2021/22年度の実績は、前月予測からの変更はなく、対2020/21年度比11.1%減の1.4百万トンの見込み。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2022.11.9）によれば、ベトナム産米（長粒種、5%碎米混入）の11月8日までの週の価格は、タイトな供給量と需要増加により、10月11日までの週の価格から19ドル/トン上昇して448ドル/トンとなった。

## コメベトナム

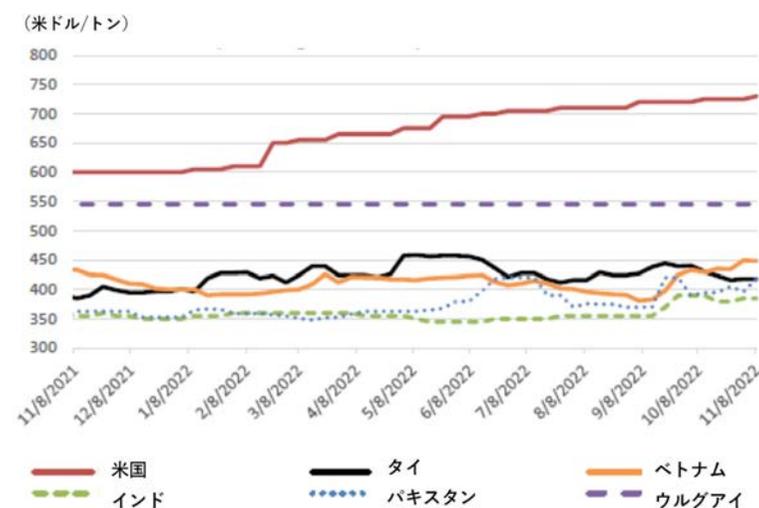
北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位：百万精米トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (23年1月～23年12月)			
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	27.4	26.9	27.2 (28.3)	▲ 0.2	1.1	
消費量	21.5	21.5	21.5 (22.3)	-	-	
輸出量	6.3	7.0	7.2 (6.8)	-	2.9	
輸入量	1.8	1.4	0.7 (0.6)	-	▲ 50.0	
期末在庫量	2.6	2.5	1.7 (2.7)	▲ 0.4	▲ 31.0	
期末在庫率	9.5%	8.7%	6.0% (9.3%)	▲ 1.4	▲ 2.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.31	7.27	7.28 (7.22)	▲ 0.01	0.1	
単収(もみt/ha)	6.00	5.93	5.99 (3.92)	▲ 0.02	1.0	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)  
IGC「Grain Market Report」(20 October 2022) (単収は精米t/ha)

図：長粒種のFOB価格の推移



資料：USDA「Grain: World Markets and Trade」(2022.11.9)より。

## II 油糧種子 大豆

### (1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

＜米国農務省（USDA）の見通し＞ 2022/23 年度

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- ・米国等で上方修正も、アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

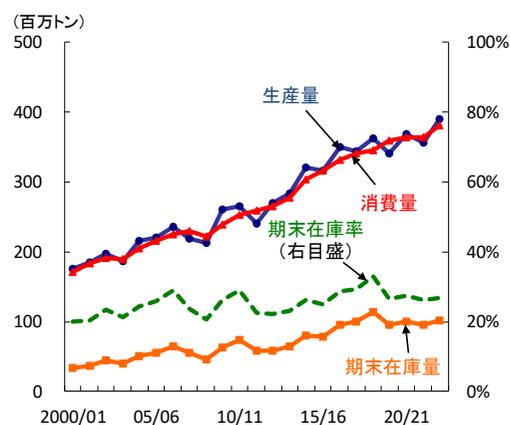
**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- ・米国、ブラジル等で上方修正も、アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・アルゼンチン、南アフリカで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**期末在庫量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」(2022. 11. 9)をもとに農林水産省で作成

## ◎世界の大豆需給

(単位：百万トン)

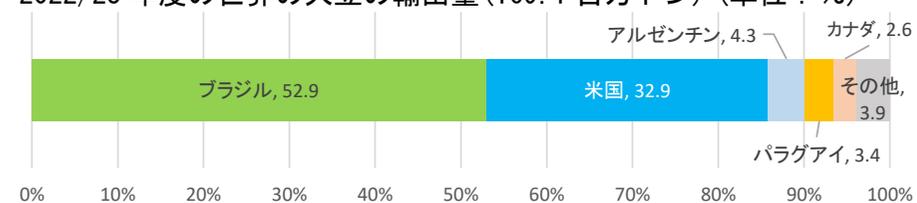
年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	368.5	355.6	390.5	▲ 0.5	9.8
消費量	363.8	363.2	380.2	▲ 0.1	4.7
うち搾油用	315.4	314.5	329.3	▲ 0.2	4.7
輸出量	165.0	154.0	169.1	0.3	9.8
輸入量	165.5	156.2	166.3	0.1	6.4
期末在庫量	100.0	94.7	102.2	1.7	7.9
期末在庫率	27.5%	26.1%	26.9%	0.4	0.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 November 2022)

### ○ 2022/23 年度の世界の大豆の生産量 (390.5 百万トン) (単位：%)



### ○ 2022/23 年度の世界の大豆の輸出量 (169.1 百万トン) (単位：%)



### ○ 2022/23 年度の世界の大豆の輸入量 (166.3 百万トン) (単位：%)



## (2) 国別の大豆の需給動向

### < 米国 > 生産量は減産、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、11月1日時点での作柄を踏まえ、アイオワ州、ミズーリ州、ネブラスカ州等の単収が上方修正されたことで、前月予測から0.9百万トン上方修正されたものの、夏季のコーンベルトの一部での高温・乾燥の影響から前年度より2.7%減の118.3百万トンの見通し。

USDA「Crop Progress」(2022.11.14)によれば、収穫期の天候に恵まれ、主要18州における収穫進捗率は96%と前年度同期及び過去5年平均(ともに91%)より進んでいる。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、国内の大豆粕需要の高まりにより搾油用消費量が上方修正されたことから前月予測から0.3百万トン上方修正され、前年度より2.7%増の64.5百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より5.2%減の55.7百万トンの見込み。

USDAによれば、2022年輸出検証高(2022年1月6日～11月3日)は、38.9百万トンであり、内訳は中国(19.1百万トン)、メキシコ(4.5百万トン)、エジプト(2.7百万トン)、日本(2.0百万トン)、ドイツ(2.0百万トン)の順。

USDAによれば、2022/23年度の期末在庫量は、前月予測から0.6百万トン上方修正されたものの、生産量減少と消費量増加から前年度より19.6%減の6.0百万トンの見込み。なお、期末在庫率は5.0%で、前年度を下回り、2015/16年度以来の低水準の見込み。

## 大豆－米国

(単位：百万トン)

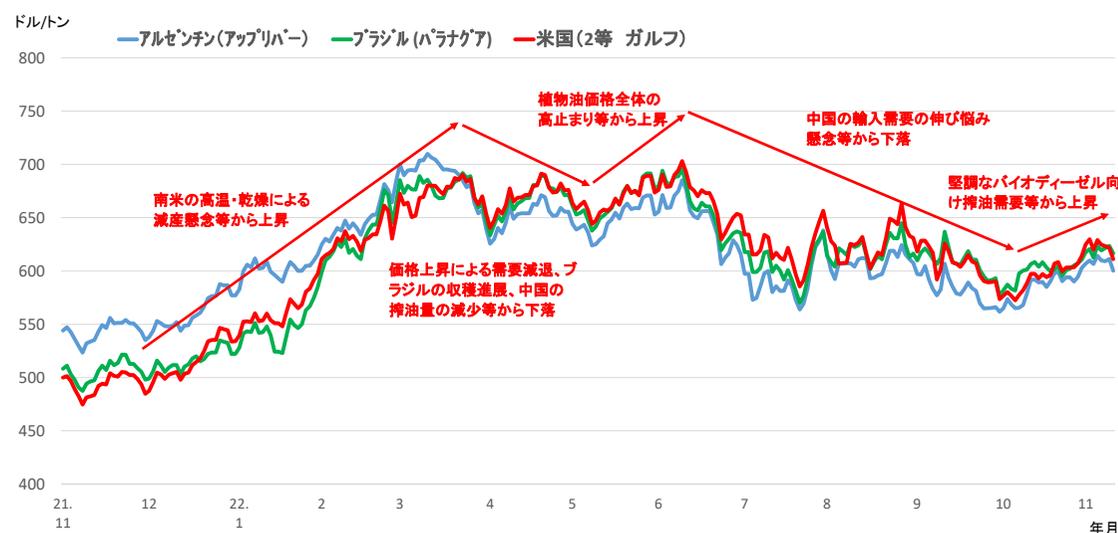
年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年9月～23年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	114.8	121.5	118.3	0.9	▲ 2.7
消費量	60.9	62.8	64.5	0.3	▲ 2.7
うち搾油用	58.3	60.0	61.1	0.3	▲ 1.9
輸 出 量	61.7	58.7	55.7	-	▲ 5.2
輸 入 量	0.5	0.4	0.4	-	▲ 4.7
期末在庫量	7.0	7.5	6.0	0.6	▲ 19.6
期末在庫率	5.7%	6.1%	5.0%	0.4	▲ 1.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	33.43	34.93	35.06	-	0.4
単収(t/ha)	3.43	3.48	3.37	0.02	▲ 3.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格(FOB)の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

## ＜ ブラジル ＞ 生産量は史上最高、輸出量も史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加から、前年度より19.7%増の152.0百万トンと史上最高の見込み。なお、収穫面積は、特に中西部のマット・グロッソ州（最大生産州）、ゴイアス州等で増加見込み。

また、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2022.11.9)によれば、2022/23年度の実生産量は、ラニーニャ現象から南部の州を中心に深刻な高温・乾燥の影響を受けた前年度より22.3%増の153.5百万トンで史上最高の見込み。

11月上旬から中旬にかけて、多くの産地で平年以下の降水量となっている。作付進捗率は、中西部のマット・グロッソ州で11月18日現在、99%で過去5年平均(97%)より進み、南部のパラナ州で11月7日現在、79%と前年度同期(88%)より遅れている。南部のリオ・グランデ・ド・スール州で11月17日現在、30%と過去5年平均(46%)より遅れている。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、搾油用消費量の上方修正により、前月予測から0.3百万トン上方修正され、前年度より2.0%増の55.4百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加から前年度より12.8%増の89.5百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2022年1～10月の輸出量は74.6百万トンで、前年同期(80.8百万トン)に比べ7.7%減となっている。内訳は、1位が中国50.5百万トン、2位がスペイン3.2百万トン、3位がタイ2.5百万トンとなっている。なお、10月の輸出量は4.1百万トンで前年同月(3.3百万トン)と比べ、23.4%増となっている。

## 大豆－ブラジル

(単位：百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年10月～23年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	139.5	127.0	152.0 (147.5)	-	19.7
消費量	49.9	54.3	55.4 (53.8)	0.3	2.0
うち搾油用	46.7	51.0	51.8 (50.8)	0.3	1.5
輸出量	81.7	79.4	89.5 (91.0)	-	12.8
輸入量	1.0	0.5	0.8 (0.4)	-	38.9
期末在庫量	29.4	23.3	31.2 (4.9)	▲0.1	33.8
期末在庫率	22.4%	17.5%	21.6% (3.4%)	▲0.1	4.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	39.50	41.50	42.90 (42.89)	-	3.4
単収(t/ha)	3.53	3.06	3.54 (3.44)	-	15.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)  
IGC「Grain Market Report」(20 October 2022)

### ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2022/23年度の大豆の作付けは、2022年9月以降、順次開始。

2023年2月以降、大豆の収穫が行われ、その後、一部の圃場で冬とうもろこしを栽培予定。

2022/23年度	2022年												2023年									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
夏とうもろこし	リオ・グランデ・ド・スール州等						作付 4.4(百万ha)						収穫 28.2(百万t)						→ 収穫夏冬作計 126.4百万t			
冬とうもろこし	作付面積夏冬作計 22.3百万ha ←												作付 17.9(百万ha)			収穫 98.2(百万t)						↑
大豆	マット・グロッソ州、パラナ州等						作付 43.2(百万ha)						収穫 153.5(百万t)						↑ 大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし作付け			

資料：CONAB穀物レポート(2022.11.9)

## ＜ アルゼンチン ＞ 生産量は史上最高、輸出量前年度比 2.5 倍（輸出税継続）

【生育・生産状況】USDA によれば、2022/23 年度の生産量は、収穫面積予想の下方修正に伴い、前月予測から 1.5 百万トン下方修正され、収穫面積及び単収の増加から、高温・乾燥の影響を受けた前年度より 12.8%増の 49.5 百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2022.11.17）によれば、2022/23 年度の作付進捗率は 12%で、最近の降雨で表層の土壌水分量は改善したものの、前年度同期（28%）より 16 ポイント遅れている。

【需要状況】USDA によれば、2022/23 年度の消費量は、生産量の下方修正に伴う搾油用消費量の下方修正により前月予測から 0.8 百万トン下方修正されたものの、生産量の増加に伴い、前年度より 2.1%増の 47.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2022/23 年度の輸出量は、9 月末までの為替優遇措置による農家売渡しの急増に伴い、10 月の輸出も好調だったことから前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、前年度より 2.5 倍の 7.2 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2022 年 1～9 月の輸出量は 244.9 万トンで、前年同期（497.8 万トン）より 50.8%減。内訳は、1 位が中国 202.2 万トン、2 位が米国 8.8 万トン、3 位がチリ 4.2 万トン。9 月の輸出量は 116.4 万トンで、為替優遇措置により前年同月（83.3 万トン）の 1.4 倍。

アルゼンチンは、丸大豆より搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆油及び大豆粕については、世界第 1 位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆最大 33%、大豆油及び大豆粕 31%に設定。さらに、2022 年 3 月 19 日付けアルゼンチン農牧漁業省プレスリリースによれば、大豆油及び大豆粕の輸出税について 2022 年末まで 2%引き上げ、大豆と横並びの 33%に変更した。

また、2022 年 9 月 4 日にアルゼンチン政府は、足元の公式為替レート of 139 ペソ/ドルから 9 月末まで丸大豆輸出のみに適用される為替優遇措置（200 ペソ/ドル）を大豆農家に対して発表したことにより、これまで滞留していた農家の大豆売渡が加速した。

## 大豆ーアルゼンチン

（単位：百万トン）

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年10月～23年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	46.2	43.9	49.5	(48.0)	▲ 1.5	12.8
消費量	47.4	46.0	47.0	(48.2)	▲ 0.8	2.1
うち搾油用	40.2	38.8	39.8	(42.2)	▲ 0.8	2.4
輸 出 量	5.2	2.9	7.2	(4.5)	0.2	151.7
輸 入 量	4.8	3.8	4.8	(4.8)	-	25.0
期末在庫量	25.1	23.9	24.0	(3.7)	▲ 0.2	0.4
期末在庫率	47.6%	48.9%	44.3%	(7.0%)	0.1	▲ 4.6
(参考)						
収穫面積(百万ha)	16.47	15.90	16.50	(16.65)	▲ 0.50	3.8
単収(t/ha)	2.81	2.76	3.00	(2.88)	-	8.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)  
IGC 「Grain Market Report」(20 October 2022)

### 写真：北部サンタフェ州の播種を待つ大豆種子 (11月6日撮影)

降雨不足により作付けが遅れており、降雨により土壌水分量が改善し次第、作付け開始。



## < 中国 > 増産見通し、消費量・輸入量も増加見通し

【生産・生育状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、政府の補助金による大豆生産奨励策で収穫面積が増加したことから、前年度より12.2%増の18.4百万トンの見込み。

中国中央气象台によれば、11月上旬現在、収穫はすでに終了。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、畜産向け国内大豆粕需要が前年度（経済成長の減速により豚肉を中心に食肉需要が低調）から回復することにより、前年度より8.7%増の116.6百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より7.0%増の98.0百万トンの見込み。なお、2021/22年度の輸入量は、貿易実績を反映し、前月予測から1.6百万トン上方修正されたものの、2020/21年度より8.2%減の91.6百万トンの見込み。

中国の貿易統計によれば、2022年1～9月の輸入量は69.1百万トンと、前年同期比で6.7%減。内訳は、ブラジル産46.5百万トン（67%）、米国産19.4百万トン（28%）。今後は、米国の収穫に伴い、輸入先が徐々に米国産に切り替わるとみられる。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2022年9月号」によると、9月は、新穀大豆が市場に出荷されたものの、農家は作付けコストの上昇を受けて、新穀大豆価格に対する高値の期待が高く、売却に消極的。しかし、国家備蓄大豆の競売が数回行われたことで、国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は、前月（6,520元/トン）から横ばいの6,520元/トンとなり、依然として高水準で推移している。新穀大豆の市場への供給が増加することから、今後、国内価格は短期的に小幅下落するとみられる。9月の輸入価格（山東省の輸入大豆価格）は、米国の単収低下懸念や原油先物価格の上昇から5,260元/トンと前月（5,040元/トン）から上昇した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

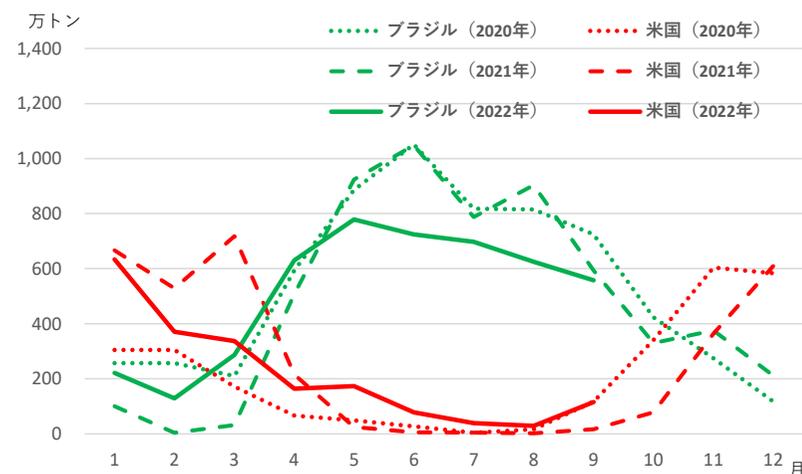
## 大豆—中国

(単位：百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年10月～23年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	19.6	16.4	18.4 (19.5)	-	12.2
消費量	112.7	107.2	116.6 (114.2)	-	8.7
うち搾油用	93.0	87.5	96.0 (95.5)	-	9.7
輸出货量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
輸入量	99.7	91.6	98.0 (96.3)	-	7.0
期末在庫量	31.2	31.8	31.5 (31.4)	1.0	▲ 0.9
期末在庫率	27.6%	29.6%	27.0% (27.5%)	0.9	▲ 2.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.88	8.40	9.35 (9.90)	-	11.3
単収(t/ha)	1.98	1.95	1.97 (1.97)	-	1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(9 November 2022)  
IGC「Grain Market Report」(20 October 2022)

図：中国におけるブラジル、米国産大豆の輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

## < カナダ > 収穫面積は減少も、単収の増加により増産、輸出量も増加見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積は減少するものの、単収の増加から前年度より3.6%増の6.5百万トンの見込み。11月中旬時点で、収穫は終了。

カナダ農務農産食品省（AAFC）「Outlook for Principal Field Crops」（2022.11.18）によれば、2022/23年度の収穫面積は前年度より1.7%減の一方、単収は西部カナダで生育期の降雨と温暖な天候に恵まれたことから、前年度において高温・乾燥で減産となった生産量第2位のマニトバ州で前年度より44.3%増と増加するなど、カナダ全体の単収が5.4%増となることから、生産量は前年度より3.7%増の6.5百万トンの見込み。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より2.8%増の2.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より2.9%増の4.4百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会（Canadian Grain Commission）によれば、2022/23年度（2022年8月～2023年7月）のうち、2022年8～9月の輸出量は4.4万トンで、国別では、オランダ（2.1万トン）、ベルギー（2.1万トン）の順である。

## 大豆－カナダ

（単位：百万トン）

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年8月～23年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.4	6.3	6.5 (6.5)	-	3.6
消費量	2.5	2.4	2.5 (2.5)	-	2.8
うち搾油用	1.6	1.8	1.9 (1.9)	-	0.3
輸 出 量	4.7	4.3	4.4 (4.4)	-	2.9
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.4)	-	▲ 7.6
期末在庫量	0.3	0.4	0.6 (0.3)	-	30.4
期末在庫率	4.1%	6.4%	8.1% (4.3%)	-	1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.04	2.13	2.10 (2.10)	-	▲ 1.4
単収(t/ha)	3.12	2.94	3.10 (3.10)	-	5.4

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(9 November 2022)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(18 November 2022)

写真：カナダ西部の大豆の運搬風景  
(10月29日撮影) 鉄道貨車を牽引



(参考1)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2022/23年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	22年6月～23年5月	22年9月～23年8月	22年8月～23年7月	22年9月～23年8月
カナダ	22年8月～23年7月			22年8月～23年7月
豪州	22年10月～23年9月		23年3月～24年2月	
EU	22年7月～23年6月	22年10月～23年9月		
中国	22年7月～23年6月	22年10月～23年9月	22年7月～23年6月	22年10月～23年9月
ロシア	22年7月～23年6月	22年10月～23年9月		22年9月～23年8月
ウクライナ	22年7月～23年6月	22年10月～23年9月		
ブラジル		23年3月～24年2月	23年4月～24年3月	22年10月～23年9月
アルゼンチン	22年12月～23年11月	23年3月～24年2月		22年10月～23年9月
タイ			23年1月～12月	
インド	22年4月～23年3月		22年10月～23年9月	
ベトナム			23年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。  
 例えば、2022/23年度は、米国の小麦では2022年6月～2023年5月、ブラジルのとうもろこしでは2023年3月～2024年2月です。  
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。  
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.040469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラック)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏→摂氏 : $^{\circ}\text{C} = (^{\circ}\text{F} - 32) \div 1.8$			